

SIP-adus Workshop 2020

Closing for SBI session

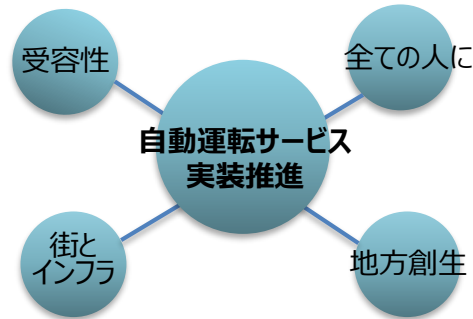
外山 友里絵
SIP-adus / 株式会社三菱総合研究所



本セッションにおけるまとめ

◆ “自動運転を全ての人へ”

- 今年度のSBIセッションでは、あらゆる自動運転のステークホルダーの観点から情報提供を頂いた。



Source: Prof's Kawamoto at opening remarks

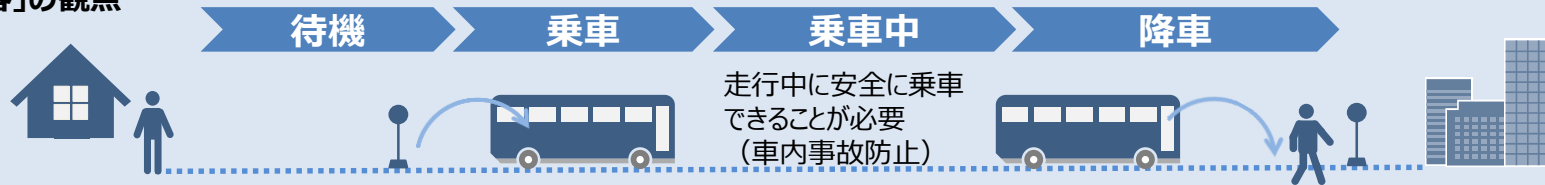
- 誰しものが自動運転車両のドライバーにも乗客にもなりうる、また誰しものが自動運転車両が走る街の市民になりうるという観点で、自動運転の検討にあたる必要があると再確認できた。
- このような気づきを今一度意識し、自動運転の実用化に際してはあらゆるSIIダイバーシティへの尊重を元にビジネスとサービスの設計が必要不可欠である。

今後の課題(1)

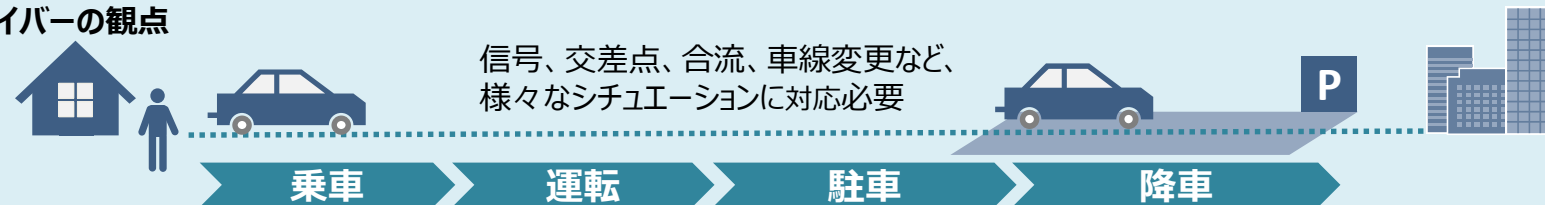
◆ サービスを想定した社会受容性とリスクの分析

- 自動運転に関わる市民の立場は、様々。
- それぞれの自動運転との関係性、リスク、制度整備の課題など、ユースケースの一連のサービスの流れを想定し、実現に向けた課題を詰める必要がある。
- サービスを一つの流れ(チェーン)としてリスクを分析することにより、課題発見の抜けを防ぐことができる。

「乗客」の観点



「ドライバーの観点



◆ ビジネスモデルは「メリット」と「受益者」の再定義

- 実装に向けて、自動運転に係るコスト回収のビジネスモデルはどこの国においても今後の課題である。
- 自動運転の「メリット」と「受益者」は必ずしも直接的な利用者(ドライバーや乗客)だけとも限らない。メリットを再定義し、ビジネスモデルを考えていく必要がある。

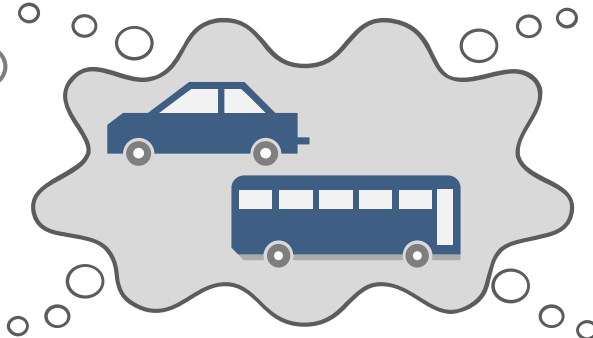
他の交通モードとの
連携推進による
交通ネットワークの魅力向上



新技術活用による
都市の競争力向上
とよりよい暮らし



スムーズで安全な交通流



人材・労働時間の
効率的な活用

SIP-adus Workshop 2020



ご清聴ありがとうございました。

- ご質問・ご意見がございましたら、Q&Aフォームへお願いします